

学校教育目標

- ・ 創造する生徒
- ・ 心豊かな生徒
- ・ 鍛える生徒

藤花だより

平成 28 年度 5 月号
平成 28 年 5 月 2 日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<http://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「場を清める」

校長 佐藤 和 男

木々の緑がとても鮮やかになり、さわやかな季節になりました。しかし、先月の熊本県を中心に発生した大地震で多くの尊い命が失われ、被災された皆さんの避難生活を考えると誠に心が痛みます。心より、お見舞い申し上げます。さらに、1日でも早い復興を願わずにいられません。

この震災に対して、大宮西中学校生徒会のメンバーが少しでも被災された皆さんのお役にたいたいという一心で、先週1週間、朝のあいさつ運動と同時並行で、被災地への募金活動を行いました。本校のたくさんの子どもたちが、この募金活動に協力してくれました。そして、私たち教職員もこの活動を応援すべく、微力ながらこの募金活動に協力をいたしました。各ご家庭におかれましても、子どもたちの自主的な活動に、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございました。まさにここで、「助け合い」「協力し合い」「励まし合い」「手を取り合う」等の「あい」のあふれる活動が展開されました。

さて、野球やサッカーなどの人気スポーツに比べて、相撲ファンの中学生は少ないと思いますが、今月はまず私の好きな相撲の話から・・・

皆さんもご存じの通り、大相撲では力士が対戦する前の仕切りの時に、土俵に塩をまきます。この、「清めの塩」をまくことは相撲にとって大切な所作です。塩をまく所作は、地中の邪気を払い、土俵を清める（浄める）意味と、力士が怪我をしないことを祈り、擦り傷などの殺菌効果もかねており、本場所の15日間では約650kgの塩が使われるそうです。

さて、この「清め」という言葉が入る、教育学者・森信三先生の「時を守り、場を清め、礼を正す」は、学校や職場を再生するために必要な実践項目を表した有名な言葉です。本校にも教室、職員室、校長室等に、この言葉が掲示されており、生活に大切な実践項目となっています。掃除と言えば、イエローハットの創業者である鍵山秀三郎氏が有名です。朝からトイレ掃除を第一とし、職場のみならず、全社員が地域の清掃を日課にしている会社です。ごみが落ちていない状況を作り、そこに行き交う人の心を明るくする雰囲気高め、一人ひとりの社員が創意工夫を重ね、その場を良くしています。

学校においても、場を清めることはとても大切なことです。子どもたちは、生活の場である学校の環境を整える

ことで学級、学年、学校に貢献し、自らが役立つ存在として、学校を愛する気持ちの向上を図ることが出来ます。さらに、「場を清める」ことで、清潔に整えられた教育環境が、生き生きとした西中学校の子ども達を育むことに繋がるのです。西中学校では、毎朝授業が始まる前に清掃の時間を設定しています。この時間では、私もほうきを持って校内を回りながら、子どもたちと協働の作業をしています。開校42年目を迎え、校舎も古くなってきている現状の中で、子どもたちは毎日一生懸命に清掃に取り組んでいます。このような取組に対して、校長として誇りに思い、大変感謝しています。

そして、さらにもう一步踏み込んだ実践・・・それは、足元にあるゴミひとつを自然に捨てる姿を多く生み出すことが、教育を携わる者としての使命だと強く感じています。今後も、家庭や地域の皆様と共に手を取り合って、「場を清める」活動を推進してまいります。どうぞ、よろしく願いいたします。

